

社会福祉法人 **伯耆の国** HOUKINOKUNI

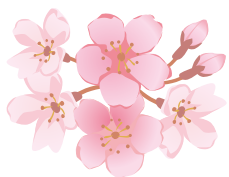
伯耆の国 基本理念  
「個々の生活観を尊重し、  
豊かな心と安心・信頼の  
地域づくりを目指して」

# けやき



**伯耆の国設立**

**20周年を迎えて**



## 伯耆の国設立20周年を迎えて

理事長 山野 良夫



平成15年2月4日法人設立、同年5月特別養護老人ホームゆうらく開所から早いもので20年を経過することとなりました。この間伯耆の国のサービス・各種活動を、ご利用・ご支援いただきました地域の皆様方に厚く御礼申し上げます。

さて、この20年を振り返ってみますと南部町からのゆうらく施設の無償譲渡及び敷地買収、保育園の指定管理による運営等、公設民営的法人から民間法人としての意識が強まりました。また記憶に残る大きな出来事としては平成25年5月に開催された全国植樹祭の行幸啓で、天皇・皇后両陛下のゆうらくご訪問の誉れを受けました。これも一重に行政関係者、地域住民の皆さま方のご支援の賜と深い感謝と共にこれから先の役職員一同の大きな励みとなりました。

また社会情勢の変化に伴い社会福祉法人を取り巻く状況も変わり、平成29年の法改正により社会福祉法人改革の推進が強く望まれる中、中山間地域に存在する伯耆の国も地域の中でその存在意義を確認・確立する必要性が高まってきました。

今行政内で検討が進んでいる保育園民営化の受け皿としての検討、町内社会福祉法人間の連携・共働、共生社会実現に向けた取り組み等、その公益性の発揮による中山間地域の社会福祉法人としての在り方の検討と実践が強く求められています。

激変する社会情勢の中、これから新たな20年、30年の先を見越し、地域社会に求められる社会福祉法人としての役割・機能を検討・実践し、地域社会と共にある法人運営を目指してまいります。地域住民の皆様方におかれましてもこれからの伯耆の国の活動に対し、これまで同様のご理解、ご支援を承りますよう改めてお願いし、法人設立20周年を迎えることができました御礼のご挨拶といたします。

# 伯耆の国設立20周年お祝いの言葉

南部町長 陶山 清孝

「伯耆の国」法人設立、そして特別養護老人ホーム「ゆうらく」の開設20周年にあたり、南部町長として心からお祝いを申し上げます。山野理事長をはじめ歴代の職員、関係者のみなさまのご尽力に対し、深く敬意を表し感謝申し上げます。

世の移り変わりの激しさを「10年一昔」と言いますが、個室ユニット型の新型特養「ゆうらく」が開設されて20年になると聞き、この間の福祉政策、とりわけ介護保険の成熟に20年二昔を感じています。あらためて「ゆうらく」の前身である鳥取県立特別養護老人ホーム「有楽苑」からの歴史を振り返ってみたいと思います。

昭和45年に鳥取県下最初の特別養護老人ホームとして倭に建設された施設が、県立町営の「西伯有楽苑」でした。平成10年に当時の西伯町は鳥取県から建替の協議を受け、その後改築と移管についての協議が重ねられてきました。平成12年から始まる介護保険スタート前後の、まさに暗中模索の中での方針が社会福祉法人「伯耆の国」の設立であり、「ゆうらく」の建設でした。さらに施設利用者の暮らしを大切にす理念を具現化したのは、京都大学院外山教授設計監修による全国初となった「個室・ユニットケア」でした。それまでの、家族介護ができない特別な人を収容する措置施設から、自宅での生活が施設の中でも当たり前に継続できる「暮らしの場」としての施設ケアを全国で初めて実現させたのが「ゆうらく」でした。当時の西伯町長坂本昭文氏の福祉への熱い思いを原動力に、職員を始め関係者のみなさんが施設以上に心のこもった福祉サービスの実現に日夜奮闘された姿は、時を越えて今につながっていると私は感じています。

20年の歴史は決して平坦なものではなかったと思います。先人たちがその時代を挑戦と努力で克服してきた歴史を今後も大切にしたいといただき、次の10年20年、さらなる躍進をご祈念いたします。

初代伯耆の国理事長 坂本 昭文

伯耆の国の20周年を心からお慶び申し上げます。これまで携わってこられた役職員の皆様に深甚なる敬意を表すと共に、そのご努力に厚く御礼を申し上げます。

当時の有楽苑は県立、町営という責任が曖昧な運営に加え、老朽化が著しい上に4人部屋の介護、食事も入浴にあり、特老の建て替えを要望してきました。時の知事は故西尾邑次氏で、実兄の故生田泰治氏の力をお借りして知事室に陳情に行き、兄弟対決ともいえるべき減多にお目にかかれぬ場面には遭遇しました。

「知事さん、県下最初の特老を受け入れた事をどう思っておられるのか。特老は姥捨て山のように言われていて『生田、磯田（故磯田俊二町長）は間違いないで今度の選挙では落選するぞ』と故石破知事に言われたものだ。だが今後の高齢社会には特老が必要という事で誘致してきた。その特老が古くなって建て替えの時期を迎えている。若い町長が誕生したこの機会に良い返事を聞かせてほしい。」と言うような内容でした。先を見て覚悟を持って誘致されたのだと、私も決意を新たにしました。今でも良く覚えております。国の課長さんや、京大の故外山教授の指導などにより大幅な設計変更、工事費の増嵩などご迷惑をおかけしましたが、何とかオープンに間に合わせることが出来ました。オープンして間無しなので運営資金や、ボーナス分として一億円を超える借り入れをしたことなど、思い出は尽きないのです。

平成25年、丁度10周年を迎えたのを機に山野理事長に後を託したのですが、本体の修繕、グループホームおちあいの新設、保育園運営の受託などにも力を入れて、立派な運営をされている伯耆の国は私の生涯の誇りです。いつまでも町にとって無くしてはならない社会福祉法人として、今後50年、百年と積み重ね一層発展をされるように祈念して、お祝いのご挨拶と致します。

## 職員より

看護師（現・副施設長） 田子 真由美

法人設立20周年おめでとうございます。  
「集団処遇」から「ユニットケア」を提供する施設としてスタート、同時に看護職として従事させていただき、20年を迎えます。「個」を尊重した尊厳を守る個別ケアと質の高いケアの提供が継続できるように更に精進してまいります。

介護科長 嶋田 智子

20年前、95名の入居者と職員が2日間でゆつらくに引っ越ししてきたことを思い出します。ユニットケアと向き合い、一人一人の暮らしを支えるために、日々、職員皆で考え実践してきました。そしてグループホームおちあいでの勤務もどれだけ心に寄り添えるかを考えながらの毎日でした。様々なことを入居者、そして仲間から教えてもらいました。これからも笑顔で共に一緒に時間を過ごせたらと思います。

いくらの郷 勝部 秀美

私は今、いくらの郷に勤務させていただいています。長く働いてこれたのも常に周りの方々の協力があったからこそと思っています。これからも皆さま方との信頼関係を大切にして微力ではありますが、若者の社会復帰のお手伝いをしていきたいと思っています。



デイサービスしあわせ

看護師 永田 美知子

初めての介護の世界が「認知症デイサービス」でした。右も左も分からず課題山積みのスタートでしたが、法人内外の研修、職員間の頻繁な意見交換に助けられながらなんとか出来たのかなと思います。

20年間3か所のデイサービス、ケアマネの仕事の中でコミュニケーションの大切さを感じました。色々なことがありましたが、楽しく仕事できた20年だったと感じています。



介護支援専門員 加賀 奈美子

20年と聞くと長いようですが、あつという間の時間でした。思えば、介護の知識が全くなく資格も持たない状態で、入職した私が、ここまで仕事を続けていくことができたのは、法人の研修制度や資格取得に対するサポートがあったからだと思います。知識が増えることで仕事に対する自信や喜びを持つことができました。今後も知識を増やすことでご利用者の生活を少しでも支えるお手伝いができればと思っています。



ユニット介護士 三澤 大晋

開所当時、集団処遇から個別ケアへの転換期であり、半数近くが新人職員だった事を思い出します。ソフト面の構築と共に一から皆で前向きに悩み、考えながら作ってきたように思います。今後も周囲の支えてくださった方々に感謝の気持ちを忘れずに、伯耆の国を支える歯車の一つになれば良いと思います。

ユニット介護職 西村 和哉

特養ゆうらくが開設し早20年が経とうとしています。前職が介護と関係ない職種であった自分は毎日が始めての経験ばかりで忙しい毎日を送っていたように思い出されます。あの時から20年も経つのだと思うとあっという間の20年でした。自分自身も年齢を重ねるうらくと共に成長できたのではないかと思います。今後もお世話になった地域に恩返しのできる気持ちで貢献して行きたいと思っています。

デイサービスいこい

介護職 上村 美枝

入職し、20年早いものですね。20年前、介護の技術や知識が乏しかった私に県内外の研修に参加の機会をいただき、たくさん学びや貴重な経験をさせていただいたこと大変感謝しております。利用者さまとの一期一会を大切に、学んだことが活かされればと思います。

デイサービスしあわせ

看護師 森脇 知佐恵

開所当初は環境が変わることを利用者の方々に混乱が起きないか不安を抱えながら試行錯誤で取り組んだことが思い出されます。あれから20年を迎えることが出来たのも地域の方々のおかげです。今後も地域の皆さまが安心して過ごせるよう貢献していきたいと思っています。



デイサービスゆうらく

介護士 永栄 武也

介護の仕事について30年がたとうとしています。折に触れ、ご利用者から昔大変苦労されたお話をおうかがいすることがあります。今の時代がいかに幸せであるかを気づかされ、自戒する日々だったように思います。継続は力なり、ご利用者やご家族、医療福祉関係者など多くの方々との出会いの中で、一個の人間として多くの学びを頂戴いたしました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。



デイサービスゆうらく

介護士 濱田 静香

開設20周年おめでとございます。開設当初私は育休中でしたが、そんな娘も成人式を迎えます。伯耆の国も20歳を迎えると思うと「色んな事があつたなあ」と感慨深く思います。たくさんの方と巡り合い、色々な縁をいただけたことは私にとって宝物です。今後とも伯耆の国が地域貢献の担い手として活躍されていくことを期待しています。

ユニット介護士 雲木 真吾

時が過ぎるのも早いもので、入職してから20年が過ぎました。思い返してみると、開設当初は社会人1年目でユニットケアがスタートしたばかりの年でしたので分からない事も多く手探りの状態で仕事をしていました。20年経った今でも初心を忘れずに入居者の生活のサポートをする事でこれからの伯耆の国の支えになればと思います。





ユニット介護士 秦 扶美子

ユニットケアとはどんなことをするのだろうと不安を抱えながらスタートし、早いもので20周年を迎えました。職員はもとより、入居者様のご家族様、地域の方々のご協力があつて今の「ゆうらく」があると 생각합니다。これからも、皆様のご協力を仰ぎながら入居者様の笑顔あふれる「ゆうらく」であらばと思います。

ユニット介護士 生田 理恵

高校を卒業してゆうらくに就職し気づけば20年が経ちました。何も分らない状態から始め、たくさん経験させて頂きました。楽しい事や辛い事等色々な事がありました。出逢いや経験を経て、私自身も成長できたのではないかと思っています。これからも入居者様が笑顔で過ごして頂く事ができるよう、努めていきたいと思っています。

ユニット介護士 大江 佳子

介護の仕事に就いて、20年以上がたちました。初めは在宅で、デイサービス、訪問介護を経てゆうらくへと配属になりました。ゆうらくではユニットケアを実践しており、日々勉強の毎日だったように思います。そして色々な入居者様との出会いや別れがあり、私自身も年を重ねてまいりました。今までの経験を振り返り、入居者様が楽しく過ごしていただけるように努めてまいります。

ユニット介護士 竹本 佐知子

ゆうらくの開設から20年が経ちました。新型個室のユニットケアと言う新しいスタイルの施設。当初は、ユニットケアをどう実践していけば良いのか悩んで苦しかった事を覚えています。ユニットケアに変わり、入居者の方は勿論ですが、ご家族との関わり方がとても深くなったのを実感しています。今後も良いケアを行っていただけるよう努力していきます。

介護支援専門員 松本 寿志恵

介護の仕事に携わり、いつの間にか20年が経っていました。特養・デイでの仕事をを経て今はケアマネとして働いています。在宅で生活されている方が、住み慣れた場所ですら笑って過ごすことができるよう、これからも笑顔でお手伝いできればと思います。

介護支援専門員 足井 壮志

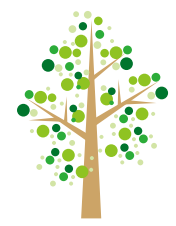
伯耆の国設立から20周年にあたり伯耆の国の設立から20年がたち、思い起こされるのは職場でかわらせていただいた方々の顔が浮かびます。福祉の仕事について同じ町内で仕事をさせていただいていること、ありがとうございます。これからも仕事を頑張っていきます。



# 旧有楽苑アルバム



# ゆうらくアルバム



# ゆうらくアルバム



カフェぎゆうらく



すいかわり



介護の学校



もちつき日赤



ゆうらく夏祭り



安来節演芸館



敬老会



芋ほり



夏祭り



祝敬老



敬老会



敬老会



新年会



法人研修



獅子舞



漬け物づくり

